



Support Our Kids ~ひとりじゃないよ



第1回ニュージーランドホームステイ実施報告書



2011年9月

Support Our Kids実行委員会・NPO法人次代の創造工房

NZホームステイ概要

- 目的：3月11日の東日本大震災で被災した子ども達を対象にした自立支援と、次の時代に渡り復興を担っていくリーダーの育成。
 - ・メンタルケア（精神的な安らぎを提供）
 - ・異文化とのふれあいにより国際感覚の醸成
 - ・日本を伝え世界とつなぐ民間大使の育成
- 対象：第1期 被災した中高生30名
第2期 被災した大学生20名
- 期間：第1期 7月27日～8月19日（24日間）
第2期
- 渡航先：ニュージーランド オークランド
- 留学先：オークランド市内のセカンダリースクール3校（別頁参照）
- 宿泊先：各学校の選定したホームステイ
- 内容：1、留学（ESOL、学校の用意したバディーと登下校及び授業や学校行事に参加）
2、社会見学
3、ファーム体験
4、ボランティア活動
5、文化交流（マオリ）
6、ラグビー見学



ホームステイのフロー

震災以降、救援隊・医療支援チームを
派遣していただいた20カ国

東日本大震災で被災した子どもたち

第2回
USA
NEW ZEALAND
Belgium

第1回
NEW ZEALAND

GERMANY CHINA FRANCE

KOREA SWISS



■海外・現在
異文化交流
現地校への短期留学
ボランティア活動への参加
スポーツ・文化体験

Support Our Kids Home Stay チャリティ

支援者の環づくり チャリティパーティー 寄付支援金

チャリティパーティーの収益金を
ホームステイプログラムと
被災した児童擁護施設へ寄付
に充当

■文化に触れる
■人々と出会う
■温もりを伝え合う


↓

災害では壊れない心の架け橋を

■応募時
震災の体験
志望動機の作文

■帰国時
報告レポート

■帰国後
ボランティア活動



■未来・将来
「日本」を伝える
「世界」をつなぐ
「国際人・リーダー」となる
「民間大使」の役割を担う

参加者

■対象

3月11日に発生した東日本大震災及びそれに伴う津波、原発事故にて家族及び親族を亡くした、または住宅が倒壊または避難のため住居を失った12歳～18歳の子ども達。

- ・ 宮城県 19名（高校生10名、中学生9名）
- ・ 岩手県 1名（高校生1名）
- ・ 福島県 10名（高校生6名、中学生2名、その他2名）



運営組織



■Support Our Kids委員会

NPO法人次代の創造工房、民間復興支援青年隊を中心とした今回のチャリティーイベントの運営事務局。企画及び資金の調達を担当。

※6/24に開催したチャリティーパーティーにて資金調達。

■Tohoku Relief Homestay

Jesus Lifehouse主催のNPO団体。応募生徒の募集、選定を担当。

■Time Out In New Zealand

ニュージーランドの民間団体。留学プログラムの作成、運営を担当。



学校の紹介

■マウント・アルバート グラマースクール



ニュージーランドのビジネス中心都市オークランドにある1922年に創立された2200人の通う伝統と誇りあふれる有名な学校です生徒に配慮・サポートを提供する環境の中で、生徒個々人が勉強面において大きな達成を成し遂げることに重きを置いています。またニュージーランド国内だけでなく世界各国の大学進学向けの基盤となる教育も提供しています。

■ダイオセサン女学校



100年以上の歴史を持つオークランド中心部の美しい敷地に最先端の教育・スポーツ施設を備えた校舎を有するダイオセサンは、誇り高き伝統に根ざし、学力やスポーツ・文化活動に優れ、明確なビジョンに基づいた取り組みを行っている英国国教会系の女学校です。5歳から高等部最終学年まで約1500名の生徒・児童が学ぶ、初等部、中等部、高等部が同一キャンパスにあります。

■リンフィールド高校



リンフィールドカレッジは市の中心部から約20分のオークランド市西部の住宅郊外に位置する100人の世界中からの留学生を含む1800名の生徒の在籍する高校です。30年以上の間、留学生を受け入れているので先駆者としての評判も高いです。またリンフィールドカレッジの強みは大規模なESOL**部門があることです。



スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
				NZ到着 ロトルアツアー	ファーム見学 シープショー	ゾーブ 乗馬
				← ロトルアツアー		
7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6
ワイトモ タッチボタル 見学ツアー	オークランド観光 (動物園、ショッ ピングモール)	学校	学校	学校	NZラグビー代表 練習見学	オークランド シティ観光
8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13
休日	学校	学校	社会見学 (国立博物館)	学校	学校	休日
8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20
ファーム見学 国立公園 ボランティア活動 バーベキュー	学校	社会見学 (海軍基地)	学校	学校	NZ出発	



現地での様子

1、留学



2、社会見学



現地での様子

3、文化交流（マオリ）



4、ラグビー見学



子どもたちの感想

<出発前>

震災当時、私は友達と一緒に石巻市内にある、ショッピングモールにいました。映画を見終わり、楽しくショッピングをしている最中でした。すごく大きな揺れで、すぐに停電になりました。私は母子家庭ですが、母と連絡を取ろうとしても全く繋がらず、近くにあった避難所で夜を迎えました。真っ暗闇の中、遠くで火事が起きているのが見え、余震が続く中とても不安な夜でした。情報はラジオのみだったので、津波が来たことなどはラジオで知りました。連絡の取れない母は、海沿いの病院で働いたし、祖父母の家も浜沿いにあったため、ダメだと思い諦めていました。ライフラインは全滅だったので、食料も水も無い日が続きました。そんな中、偶然5日目に職場からやっと脱出してきた母と道路で再会しました。話を聞くと、私が避難所から見た火事は母の職場のあたりだったそうです。それから約2週間ほど、内陸部にある親戚の家で避難生活をしていました。そこで、祖母やそのほかの親戚には再会できましたが、残念ながら祖父と再会することは出来ませんでした。祖父は、津波警報の、自宅の片付けをしている時に津波に襲われてしまったようです。祖父が発見されたのは、震災からちょうど2週間目に遺体安置所だったのですが、それまでも各所にある安置所をまわり、早く見つけて欲しい気持ちと、見つからずどこかで生きていて欲しい気持ちなどで、とても辛い日々でした。震災から1ヶ月ほど経ってから、学校も始まっていなかったためボランティアを始めました。現在もそのボランティアは続けています。少しずつですが、希望に向かって私たちは前に進み始めていました。そんなときに今回のホームステイプログラムを知りました。

私は、もともと海外へ強いあこがれを持っており、とてもいい機会だと思いました。ただ、震災からまだ完全に復旧したわけでもなく、周りではまだまだ苦しんでいる人たちがたくさんいる中で、私だけそんなことをしていいのだろうか...という思いもありました。ですが、周りのみんなに背中を押され、私はホームステイに参加することを決めました。ニュージーランドを希望した理由は、生前に大好きだった祖父が「ニュージーランドが一番好きな国」と話していたからです。

<帰国後>

ニュージーランドに到着してから4日間は、日本の生徒みんなでロトルア観光、それ以降はそれぞれのホームステイ先でホームステイをしながら、時々あるアクティビティに参加したり、学校に行って現地の方とのふれあいがありました。初日は、ロトルアでMAORIの文化にふれました。初めて見るHAKAに、感激。迫力のあるダンスから、しっとりとしたラブソングまで、心温まる音楽に心惹かれました。ロトルアでの宿泊先は、MAORIの会館に合宿形式でした。それが、ものすごく楽しくて、寝るまで楽しめました。2日目は、Skylineに乗ってロトルアの景色が一望できるところで、人生初の3人乗りバンジージャンプに乗ったり、とても美味しいレストランでランチを食べたり、牧場でたくさん動物とふれあいました。レストランには、ロトルアの市長さんにきていただいたりしました。夜は、ホットプールに行きました。温泉みたいでとても楽しかったです。3日目4日目もたくさんアクティビティがありました。そのどれもが楽しくて、ロトルア最終日に一緒に行動をし、私たちがお世話になった方々と別れるのがとても辛くて、悲しかったです。ロトルアでは、私が大好きな、星空を見る機会がありました。180度の広がる星空は、私のいる地元では見ることが出来ない景色でした。5分に1度の間隔で流れ星が流れる空は、涙が出るほどキレイで、心が洗われた気分になりました。5日目からは、オークランドでの生活でした。メインのホームステイ先の方との初対面は、とても緊張しました。私は、ホームステイ先の事情で、2件の家族の元でお世話になりました。1件目は3日間だったのですが、本当に優しく、楽しい家族で別れの朝は、涙の朝でした。2件目の家族は、残りの約2週間お世話になったのですが、たくさん時間があつたぶん、いろいろな経験をさせてくれました。一緒に現地の朝市に行ったり、お祭りに行ったり、親戚同士のホームパーティーにも参加させて頂きました。そのどれもがとっても楽しかったです。私を本当の娘のように接してくれたり、うまくコミュニケーションが取れない私のために、たくさん話しかけてくれたことが、言葉がなくても伝わってきました。学校は、Diocesanという女学校に通わせていただいたのですが、様々な国からの留学生が在学していたりして、とても貴重な体験をすることが出来ました。ホームステイ期間中に、バディーのハンナという女の子の友達の、誕生日パーティーと一緒に参加しました。私のまわりには、そのような習慣が無いので、凄く楽しかったです。日本に帰ってから、私も同じようにパーティーをしたいと思いました。たくさん楽しい時間を過ごし、あっという間に3週間が過ぎてしまいました。最後の最後まで、激励の言葉をくれた家族や、お世話になった人々への感謝の気持ちと、別れの辛さで、涙がとまりませんでした。ここには、書ききれないほどの経験をさせて頂けたこと、本当に嬉しく思います。このホームステイに参加したみんなは、今回の震災で、たくさん大切なモノ無くしました。そして震災が起きてから、本当に辛い日々を送っていました。そんな中で私は、このホームステイに参加してニュージーランドに行けて本当に良かったです。私は、ホームステイの終わりが近くなってきた時に、これからについて考えていました。まず、ホームステイの前と後で、すごく気持ちが変わりました。それまで、わたしは震災後、自分の夢を諦めていましたが、諦めずに自分の夢に向かって頑張ろうと思えるようになりました。その一番の理由は、今回、私はたくさん幸せと力を貰いました。そして、こんな幸せや力をくれたのは、ニュージーランドでお会いした皆さんと、私たちの見えないところでチャリティ運動をして頂いたお陰だと思っています。ここに、たくさん感謝を書いたり、どれだけ幸せだったかを書いて、私の思いがすべて伝わりきっていないんじゃないかと思い、すごく悔しいです。どうしても伝わるのかと考えて、将来必ず自分の夢を叶えて、今よりもっと幸せになれた時に、今回お世話になった皆さんに「私はあのときがあったから頑張ることができました」と伝えることだと思いました。私たちはこれからも、先の見えない中で、復興に向かって前に進まなくては行けません。私には目指すものがあるので、震災に負けずに頑張りたいと思います。今回は、貴重な経験とたくさん幸せ、力を本当にありがとうございました。



子どもたちの感想

<出発前>

3月11日。高校を卒業し、これから始まろうとしている東京での生活に胸を膨らませつつ、残りの春休みに地元福島県いわき市で思い出を作ろうと、免許を取った友達と一緒に海岸沿いをドライブしていました。穏やかな海を眺めながら、高校時代の思い出話を華を咲かせていたとき、突然鳴りだした携帯電話のアラーム。“緊急地震速報”のメールを開くと同時に揺れ始めた車内の窓から見えたのは、次々に倒れていくブロック塀でした。数日後、避難先のテレビでニュースを見たとき、あの日私たちがドライブした思い出の場所は全て波に吞まれていました。

そして原発での事故。“目に見えない”放射能の恐怖と錯綜する数々の情報に、不安が募る毎日。

ようやく町の人たちが動きだし、ガソリンも少しずつ買えるようになった頃、進学先の入学式が近付いていた私と新生活に最低限必要な物を車に乗せて、家族は私を東京に送り出してくれました。

上京するのは無理だろうと諦めかけていた私は、嬉しい反面、この大変なときに自分だけ良いのだろうかと思いました。

しかし背中を押してくれた家族のためにも一生懸命頑張ろうと心に誓い、新しい生活をスタートさせて迎えた最初の夏にこのホームステイプログラムを知り、自分を見直し成長するチャンスなのではないかと思い、参加させて頂きました。

<帰国後>

正直高校生のときから英語は得意ではありませんでした。なので初めての海外に楽しみな気持ちの一方で、不安のほうが大きかった気がします。しかし、ニュージーランドに着いてからはあっとゆう間でした。ロトルアで過ごした最初の4日間。ニュージーランドの先住民マオリ族について初めて知り、マオリにまつわる様々なことを教えてもらいました。鼻と鼻をくっつけて挨拶するホンギやマオリ語、中でもハカは衝撃的で、その後もニュージーランドの至るところでハカの踊りをみることができ、ニュージーランドにおいてマオリはとても伝統的だということを感じました。そしてオークランドでのホームステイ。お世話になったPayne家でたくさんの思い出ができました。スカイタワーなどのオークランドの有名な観光地や、美しいワイヒキ島。一番印象的だったのはラグビーの試合を見に連れて行ってもらったことです。家族はみんなラグビーのニュージーランド代表、オールブラックスのファンでした。お友達なども集まり大勢で応援しました。ラグビーがどのようなスポーツかいまよく分かってなかったのですが、あの会場の雰囲気と迫力あるプレーで私も一気にオールブラックスのファンになりました。夕食のあと家族でお散歩したりもしました。そのときに見たオークランドの夜景がとても綺麗でした。会話も初めの方は学校で日本語を勉強しているホストシスターの子にひとつひとつ訳してもらわないと理解することができなかったのですが、それでもゆっくり話してくれたり身振り手振りで伝えようとしてくれたおかげで、なんとなく相手の言っていることが分かるようになっていきました。学校にも通いました。私が今回一番のカルチャーショックを受けたのはこの学校です。morning tea breakとゆう時間や授業中の自由な雰囲気など、学校生活のなかで日本には無い文化が数多く見られました。そしてなにより学校にはいろんな人がいました。髪色も肌の色もそれぞれで、同い年でも見た目がとても大人っぽい子や、逆に幼く見える子も。だけどみんな気にしていないようでした。日本だと日本人じゃない人を「外人」とゆう目で見ることが多いように感じていましたが、ニュージーランドでは「外人」がいることはあたりまえのことでした。学校で友達もできました。挨拶をしてくれたり、自分の分かる日本語で話しかけてきてくれたりしたのがとても嬉しかったです。そしてもうひとつ、ホームステイ中にたくさんのアクティビティをさせてもらいました。牧場や水族館、オールブラックスの練習、海軍の軍艦まで見せてもらって、本当に貴重な体験ができました。最後に行ったハイキングで見た海と牧草地の大自然の美しい景色が目に残っています。あの景色を見たとき、自分が生きてよかったと心から感動しました。今回現地でお世話になったたくさんの方々への感謝の気持ちを伝える際、Thank you very much.としか言えない自分がもどかしくてたまいませんでした。とても一言では伝えきれないくらい感謝しています。私はこれから英語をもっと勉強して、いつか絶対ニュージーランドに行って、あのとき伝えきれなかった思いを伝えようと思いました。このホームステイプログラムがどのようにして生まれたのか、最初にある程度の説明は聞いていましたが、ニュージーランドで過ごしていくうちに自分の考えていたよりずっと大きなプロジェクトだとゆうことを知りました。大きすぎてきっとまた全てを理解できていないと思います。私の想像を遥かに越えるたくさんの人々が今回のプロジェクトを支えてくださっているのだと思います。そう考えたとき、人は人のためにここまでできるものなのかと、衝撃的なまでに感動しました。今回の体験を通してたくさんの優しさや人のあたたかさを感じました。幸せな気持ちになりました。そして自分もそんな風に、人に優しくできる人間になりたいと強く思いました。私の今後の目標は三つあります。一つ目は英語を話せるようになること。二つ目は自分の夢を叶えること。そして三つ目に、この気持ちをもっとたくさんの人に感じてもらうために、私にできることを探し、行動していくことです。どうすれば返返しができるのか分かりません。それくらい私が得たものは大きいものでした。人生観が変わりました。この気持ちをたくさんの人に味わってほしい、そのためにまずは自分ができることを見つけようと思います。今回のことを私は一生忘れません。今のこの想いを胸に、これからの人生を歩んでいきます。最後になりましたが今回協力してくださった方々全員に、日本語でも完璧には伝えきれないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、本当にありがとうございました。



子どもたちの感想

<出発前>

“ゴオー”という大きな音と共にとつともなく大きな揺れが東日本を襲いました。私の地区はすぐに停電になりテレビなどからの情報が寸断されました。とにかく何か情報を知らなければと思い、たくさんのが倒れている中なんとか自室にあったラジオから情報を得ることができました。そのラジオによると「宮城県全域に大津波警報。津波の高さは六メートルと予想されます。」とのことでした。今まで津波など経験したことのない私ですら危険を感じました。幸い同居する両親と祖父は自宅の向かいにある自営の料亭で仕事をしていたので避難を促し一度最寄りの指定避難所に車で避難しました。しかし、両親は昼食を済ませておらず空腹を訴え自宅にもどってしまい祖父と姉と三人で車の中で待つことになりました。待っている間何人か「ここはもう危険だからもっと先の避難所に避難したほうがいい。」と言われました。しかし、通信手段のない状態での勝手な行動は危険と判断し、車に三人で残りました。それから数十分経って両親が迎えに来てその避難所より先の場所に避難しようとすると、「来たぞおおおおおおお おおおおお」という大きな叫びと共に想像を絶するほどの高さの波というか黒い大きな壁のようなものが漁船を引き連れ、電柱をなぎ倒し、家を飲み込みながら迫ってきました。周りを見ると歩道 را 走り狂う人や逃げ遅れている人を誘導している人、腰が抜けて立てないのか必死に祈っている人がいました。対する私たち家族は車が乗り捨てられているのかなか進まなくなった道路で立ち往生していました。そんな私たちとは反対に大きな黒い壁は電柱をどんどんなぎ倒し私たちに迫ってきました。もうどうしようもなかったので、意を決して逆走をし、間一髪で橋上ることができました。上った瞬間橋に上りきれなかった車などが流されていくのを見ました。その夜、橋に取り残された私たちは二十二時頃市のバスで安全な避難所に送られました。それから二ヶ月半避難所生活をする事になりました。はじめは物が不足していたり、自宅や町がどんな状態なのか気がなったり身体的にも精神的にも辛い状況が続きました。震災から数日後、初めて家を見に行きました。町の姿は無残でそれまで当たり前に見てきた風景はどこにもありませんでした。家に行くまでの道は瓦礫でふさがれていたり陥没してなくなっていたりととても凄惨なものでした。家に着くとそのあまりの光景に言葉を失うことしかできませんでした。祖父の代から続いていて両親が朝早くから夜遅くまで汗水たらして働いていた料亭が跡形もなくなっていたのです。不幸中の幸いで自宅は鉄骨の非常に強い造りだったので残っていました。しかし、二階まで水が届いていてまともにものが残っていたのは三階だけでした。せっかく残った家も全く使い物にならず取り壊すしかありませんでした。最終的に生まれ育った町も家も失ってしまうことになりました。その落胆して全てを悲観していた時に父からこの企画の存在を聞き、何か転機になるかと思い参加させて頂きました。もともと私は引っ込み思案な性格で初めての海外にとても不安を持っていました。出発前時点での情報があまりに少なく、不安は大きくなるばかりでした。被災者支援はわかるけどどうして無料で参加できるのか、どこからお金が集まってきているのかよくわからないまま出発の日を迎えました。成田空港に着き出発式のようなものがありました。私はその時初めて私たちの資金集めなどに約六百六十人もの人が協力してくれたことを知りました。とても驚いたのと同時に、顔もわからない私たちのためにいろんな形で動いてくれたことに感謝の思いでいっぱいになりました。被災地でデリカシーのない言動をする観光客などが問題になっていて心を痛めていた時に、このような形で私たちに支援して頂いたことに非常にうれしく思いました。

<帰国後>

今回支援して頂いた方々のおかげでニュージーランドではとても素晴らしい経験をする事ができました。

ロトルアではたくさんの方々のアクティビティや牧場見学、そして何よりマオリの文化に触れることができました。日本とは異なることが多くありましたがどれも素敵なおものでした。オークランドではホームステイや学校などがありました。はじめは生活様式の違いなどに戸惑い、苦労しましたがすぐに慣れずごく楽しかったです。学校では普通に授業を受けました。全くわからなかったけれど、たくさん友達もできたしとても有意義な学校生活になったと思います。

今回の企画を通して、たくさんの方々のことを学びました。参加する前は英語が少しでも上手になればいい程度に考えていました。しかし、英語だけでなく異文化理解や何より人の温かさなどをすごく感じました。

参加するまで私には夢がありませんでした。学校生活においても、理系のほうが就職が良いからというだけで理系を選択し目標もなくただ何となく勉強していました。それはすごく虚しくとてもつまらないものでした。しかし、今回たくさんの方々のことを経験し、「外国に関する仕事に就く」あるいは「外国で仕事をする」という大きな夢ができました。

私は震災で「故郷」というとつともなく大きなものを失いました。しかし、たくさんの方々の支えによってこのような経験をする事もできました。それにより私は夢を持ち前を向くことができました。今回のこの経験は私の人生の大きな糧となりました。この機会を与えてくださったたくさんの方々に感謝を忘れずに、生きて生きて生きていきます。

ありがとうございました。



現地メディア

The screenshot shows the homepage of the New Zealand Herald website. The main article is titled "Tsunami victim: NZ trip 'felt like mum's wishes'". The article text includes: "A 14-year-old girl fled to her school's roof as a tsunami approached, across town, her mother was swept away. The teenager watched the ocean boil around the building and waves began to fall. Miso Taki is one of 20 Japanese students who have come to New Zealand for three weeks for a 'home visit', say her sponsors. But Miso said the invitation to fly across the ocean felt as though it had come from her dead mother. She had never taken up her mother's invitation to travel. When she spoke to the world yesterday, at the land awards at New Zealand's 'It's Fun', she said about the trip, 'New Zealand is beautiful.' Her words about the earthquake were also brief but succinct. 'The earthquake came, we went to the roof, the tsunami came, we were there for an hour, waves began to fall, we went downstairs...'. It was the holidays, and only seven students from her class were at the school. Within two days, the others were picked up by their parents. She was left alone, and a teacher took her home. 'When I found out my mum died, everyone was crying, but I don't know, I don't understand her death, I don't understand, but she's going to live.' Two months later, in the heat of the southern summer, her mother's name still feels like winter to her. Miso's 14-year-old sister seems as if she doesn't even remember, but her 13-year-old sister tries. 'My mum was a housewife, she had dreams, she had wish dreams, while I just tried to be always said, how about we do this or that? Let's go overseas. But I said I didn't like planes, and I didn't go. Now that she's dead, when a friend said [there was an opportunity] to travel I felt like my mum was telling me to go.' All 20 students brought home by Team God in NZ have lost their home or a parent. The group has spent a few days in Toronto and will spend the next three weeks in Australia. After the first couple of days, Miso said, she no longer missed home - 'I don't really want to go back,' she said. She worried before coming about her inability to speak English, but she found she loved it here. By Michael Stevenson - Photo: Michael Stevenson

This is a screenshot of a video player from the news website. The video shows a coastal scene with a road, buildings, and a large body of water. The player interface includes a progress bar, volume control, and a "VIDEOS ON DEMAND" button. The video title is "NEWS SHREWS.CO.NZ" and it has a rating of 5 stars.

This is a screenshot of a video player from the news website. The video shows three people standing outdoors in front of a building. The player interface includes a progress bar, volume control, and a "VIDEOS ON DEMAND" button. The video title is "NEWS SHREWS.CO.NZ" and it has a rating of 5 stars.

チャリティパーティ協力者

[主催]

Support our Kids ～ひとりじゃないよ 委員会

[後援]

ニュージーランド大使館、ニュージーランド貿易経済促進庁、ニュージーランド政府観光局、外務省、YELL FOR CHILDREN、オーストラリアニュージーランド商工会議所、KEA JAPAN (Kiwi Ex-Pat Association)、NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク、日本ニュージーランド経済委員会

[協力]

アディダスジャパン株式会社、アンズコフーズ株式会社、ウェスティンホテル東京、ANAインターコンチネンタルホテル東京、株式会社AKS、A Wines、Essentially Group、オリックスパフォーマンス、近畿日本鉄道株式会社、株式会社グッデイ、株式会社健康美人フォーラム、株式会社ゴルフパートナー、コンビタジャパン株式会社、The Kahala Hotel、The George、ザ・リッツカールトン東京、株式会社サンリオ、シエラトン・グランデ・オーシャンリゾート、シエラトン都ホテル東京、株式会社 ジョイトップ(Carol Priest Japan)、ゼスプリインターナショナル ジャパン株式会社、テラスダウンス リゾート、デルタ航空、東京ガス株式会社、財団法人日本サッカー協会、ニュージーランド航空、Heineken、パークハイアット東京、バンコプ・ウェルスマネジメント・リミテッド、阪神タイガース、ビッグホリデー株式会社、Fine Wine Club、Federal Express、フォンテラジャパン株式会社、ブルガリホテル&リゾーツ、Millbrook、読売ジャイアンツ、株式会社読売情報開発、楽天イーグルス、株式会社リコー (50音順)

[発起人 (敬称略・五十音順)]

ニュージーランド

アルン・ナンギア (ナショナルオーストラリア銀行東京支店 日本代表)
イアン・ケネディー (在日本ニュージーランド特命全権大使)
エド・オーバリー (ニュージーランド航空 日本・韓国地区 支社長)
シャノン・ウォーカー (ニュージーランド政府観光局 PR/IGゼクティブ)
ジョン・コンロイ (ニュージーランド貿易経済促進庁 日本・韓国地域局長)
ジョン・カーワン (ラグビー日本代表チーム ヘッドコーチ)
ジョン・ドエティ (タイムアウトin NZ 設立者、テラスダウンス リゾート マーケティング部長)
ジョン・ハンドルビー (ビーフアンドラム ニュージーランド 日本地区代表)
ティム・ウイリアムズ (ワイン・イン・スタイル株式会社 取締役会長)
ティーン サドラー (アド・ネットワークス株式会社 代表取締役 兼 最高経営責任者)
デボラ・ヘイデン (クレアブ・ギャビン・アンダーソン株式会社 東京事務所代表)
マーク・ケナリー (フォンテラ ジャパン株式会社 代表取締役社長)
ミア・エヴァンズ (バンコプ・ウェルスマネジメント・リミテッド ジェネラル・マネージャー)
ローゼン・チェン (ゼスプリインターナショナル ジャパン株式会社 代表取締役社長)
ロバート・ベル (オーストラリア・ニュージーランド銀行東京支店 CEO)
青島 俊徳 (タイムアウトin NZ 設立者)
金城 誠 (アンズコフーズ株式会社 代表取締役社長)

[発起人 (敬称略・五十音順)]

日本

赤井 勝 (花人)
秋元 康 (作詞家)
浅野 秀則 (株式会社フォーシーズ 代表取締役社長)
井田 義則 (いすゞ自動車株式会社 取締役会長)
伊東 香織 (倉敷市長)
伊東 信一郎 (全日本空輸株式会社 代表取締役社長)
氏家 正道 (フェデラルエクスプレス 北太平洋地区担当副社長)
大里 洋吉 (株式会社アミューズ 最高顧問)
小倉 純二 (財団法人 日本サッカー協会会長)
垣添 直也 (日本水産株式会社 代表取締役社長執行役員)
北牧 裕幸 (株式会社キューブ 代表取締役社長)
マリ・クリスティヌ (異文化コミュニケーター)
来栖 宏二 (アゼリグループ 理事長 医学博士)
小園 文典 (東日本電信電話株式会社 代表取締役副社長)
小林 哲也 (近畿日本鉄道株式会社 取締役社長)
小巻 亜矢 (NPO法人ハロドリム実行委員会 <内閣府認証> 代表理事)
小宮山 悟 (元プロ野球選手 野球解説者 野球評論家)
齋藤 真嗣 (ニューヨーク州 医師/腫瘍内科 感染症専門医)
坂井 信也 (阪神電気鉄道株式会社 代表取締役会長 阪神タイガース オーナー)
桜井 正光 (株式会社リコー 代表取締役会長執行役員)
篠塚 建次郎 (レーシングドライバー)
芝 幸太郎 (株式会社オフィスフォーティエイト 代表取締役社長)
島田 亨 (株式会社楽天野球団 代表取締役オーナー)
白石 康次郎 (海洋冒険家)
田川 博己 (株式会社 ジェイティービー 代表取締役社長)
館 ひろし (俳優)
田辺 善仁 (株式会社エフエム大阪 代表取締役社長)
塚原 光男 (日本体操協会副会長、オリンピック男子体操金メダリスト)
辻 信太郎 (株式会社サンリオ 代表取締役社長)
鳥原 光憲 (東京ガス株式会社 取締役会長)
鍋島 英幸 (三菱商事株式会社 代表取締役副社長執行役員)
西山 広文 (株式会社読売情報開発 代表取締役社長)
野田 勝憲 (共立印刷株式会社 代表取締役社長)
日野 皓正 (ジャストランペッター)
富木田 道臣 (株式会社エフエム東京 代表取締役社長)
福田 康夫 (第91代内閣総理大臣 日本・ニュージーランド議員連盟理事長)
丸山 邦治 (株式会社丸山海苔店 代表取締役社長)
森 浩美 (作家)
森 喜朗 (第85代、第86代内閣総理大臣 日本ラグビーフットボール協会会長)
山崎 直樹 (株式会社アップフロントグループ 代表取締役会長)
吉田 恒雄 (特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク 理事長)
吉田 康 (株式会社ブルボン 代表取締役社長)
吉野 伊佐男 (吉本興業株式会社 代表取締役会長)
秋澤 志篤 (特定非営利活動法人 次代の創造工房 理事長)



現地協力者

Air New Zealand
ANZCO
Aorangi Peak Restaurant
Aotea NZ Souvenirs Auckland
Argrodome
Auckland Tourism
Auckland Zoo
Bancorp
Big Chill
Bluebird
Buddle Findlay
Cookie Time
Cowper Haulage
Creative Rotorua - RAVE
DFS New Zealand Ltd
Essentially Group
Farmhouse Rotorua Ltd
Film Construction
Fonterra
Frucor / Suntory
Fullers
Goodman Fielder
Heinz Watties Ltd
HMNZ Naval Base
Japanese Society of Rotorua

Kiwi Experience/ THL
Kiwi Icecream
Kobushi-Kai
Map New Zealand Ltd
Mchan
Millennium Hotel, Rotorua
Ministry of Foreign Affairs of Japan
Mount Albert Aquatic Centre
New Zealand Embassy Tokyo
Nightingale & Associates
NZ Network Ltd
OK Gift Shop Ltd
Pak n Save - Rotorua
Photo Wonder New Zealand
Pizza Hutt - Rotorua
PROJECT Chiyo-ni Japan
Rainbow Springs
Recreational Services Ltd
Recursive
Rotorua District Council
Simply New Zealand
Sky City
Skyline - Rotorua
St Pierre's Sushi - Elliot St
Sweet Ideas

Tamakai Maori Village Rotorua
Tangatarua Marae - Waiariki Institute of
Technology, Rotorua
Te Puia
Terrace Downs Resort
The Warehouse
Tip Top
Tip Top Bakery
Waiariki Institute of Technology
Waikiti Valley Thermal Pools
Waitomo Caves
Whittakers
Windsor Stud
Yamato Restaurant
ZESPRI International Limited
Zorb Rotorua

